

若手リーダーが島農業の中心に

塩竈市の浦戸諸島寒風沢島では若手農業者の加藤信助さん（37歳）が代表を務める「寒風沢野菜生産者組合」が島野菜をPRする活動を続けている。

加藤さんは東日本大震災をきっかけに、祖父母が暮らした寒風沢島のために頑張りたいと思い立ち農業を始め、今年で5年目となる。

加藤さんを中心に島の農業を活発にしたいという方々が集まり、島野菜を通じて島の農業の活性化と浦戸諸島をPRすることを目的として、2018年7月に15名で寒風沢野菜生産者組合が発足した。



寒風沢野菜生産者組合定例会の様子



市内イベント（塩竈マリンゲート内）

これまでに、寒風沢野菜生産者組合は寒風沢島で育てた野菜を「さぶさわ野菜」と銘打ち、塩竈市内の店舗やイベント会場で販売したほか、子供たちに島野菜を知ってもらうために公立保育園へかぼちゃの提供を行ってきた。

加藤さんはこれまでの活動を振り返り「島野菜を島外の方に見てもらえることが増え、認知度も上がってきた。組合員も自分の育てた野菜が売れるという実感を得て、やりがいを感じている。今後も活動を継続し、島野菜を市内に定着させるとともに、安定的な販路を開拓していきたい」と話している。